

務川 慧悟

2日連続演奏会 フォルテピアノとモダンピアノ

務川 慧悟による古楽器と、モダンピアノの聴き比べ。

古楽器、ヒストリカル・ピアノ、フォルテピアノ…様々な呼び名がありますが、僕をそんな古楽科へと勧誘してくれた、古楽の師匠とのパリでの出会いは、僕の人生を大きく変えてくれた出来事の一つです。もちろん僕は現代ピアノの可能性を信じていますから、主な活動として弾いていきたいのは常に現代のピアノ、ではありますが、古楽科に在籍する中で時代の"オリジナル"な音を沢山浴び、そして弾いた5年間を経ても、僕の音楽観は根本的に覆され、そして音楽を以前とは見違えるほどに「鮮やかな手触り」を持って理解できている自分がいることに、気が付きました。

そんな感覚を皆さまにも、微かにでも味わって頂きたい。そこで今回、古楽器と現代ピアノを聴き比べる2夜連続のコンサートを企画しました。

2夜を通して聴き比べのできるよう、半分ほどは共通の作品を、そして古楽器では、今では残念ながら名の埋もれてしまった珍しい作曲家の作品の演奏も含めて組んだ、今回のプログラム。必ずや"興味深い"コンサートとなることとします。是非皆さま、新たな感覚を体感しにいらして下さい。

©Yuji Ueno

古楽器&現代ピアノ 聴き比べプログラム

2月24日(火) フォルテピアノの日

【古楽器：ヨハン・クレーマー1825年】

ヴォルジーシェク:12のラプソディー Op.1より 第1番

6つの即興曲 Op.7より 第6番

シュペルト:即興曲 第3番 変ト長調 D.899

ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調 Op.57『熱情』

..... 休憩

カルクブレンナー:24の前奏曲 Op.88より 第15番 ト長調

ショパン:ポロネーズ 第11番 ト短調 遺作

ロンド・ア・ラ・マズール へ長調 Op.5

コントルダンス

ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 Op.109

2月25日(水) モダンピアノの日

【現代ピアノ：スタインウェイ D-274】

バッハ:イタリア協奏曲 BWV 971

ショパン:ロンド・ア・ラ・マズール へ長調 Op.5

即興曲 第3番 変ト長調 Op.51

バラード 第4番 へ短調 Op.52

..... 休憩

シュペルト:即興曲 第3番 変ト長調 D.899

ブラームス:3つの間奏曲 Op.117より 第1番 変ホ長調

6つの小品 Op.118より 第6番 間奏曲 変ホ短調

ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調 Op.57『熱情』

※都合により、曲目、曲順が変更になる場合がございます。ご了承ください。

フォルテ
ピアノの
日

2026.2/24(火)

モダン
ピアノの
日

2026.2/25(水)

両日 19:00開演(18:15開場)

浜離宮朝日ホール

チケット
発売中

全席指定 7,000円 (全席指定・税込) ※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

発売所

・チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

・朝日ホール・チケットセンター TEL:03-3267-9990(オペレーター対応 日・祝除く10:00~18:00) <https://asahihall-ticket.jp/>

主催：NEXUS/ぴあ お問合せ：NEXUS info@nexus.jp

KYODO

④ 営利目的の転売禁止。

務川慧悟

Keigo Mukawa



©Yuji Ueno

2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第3位、2019年ロンドン＝クレスパン国際コンクール第2位入賞。現在、日本とフランスを拠点にピアノソロ、協奏曲、室内楽と幅広く演奏活動を行っており、レパートリーはバロックから現代音楽までと幅広く、各時代、作曲家それぞれの様式美が追究された演奏、多彩な音色には定評がある。また、現代のピアノのみならず、古楽器であるフォルテピアノでの奏法の研究にも取り組み、造詣を深めている。

2022年 NOVA Recordより「ラヴェル：ピアノ作品全集」をリリースし、同CDは2024年Etcetera Recordsより再リリースされ、フランスの「Le Monde」紙などで取り上げられ高い評価を得た他、自身の編曲によるラヴェル『マ・メール・ロワ』ピアノソロ版の譜面をMuse Pressより出版している。2025年7月、ラヴェル生誕150年を記念して開催したピアノ作品全曲演奏会では、精緻を極めた表現と詩的な響きが織りなす圧巻のステージで、聴衆を魅了。各地で大きな反響と絶賛を呼んだ。これまでにフランス、ベルギー、スイス、ラトビア、ドイツ、イタリア、ポーランド、オランダ、中国、台湾、韓国等にて演奏会を開催。

第33回日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、第33回出光音楽賞受賞。

公式サイト <https://keigomukawa.com/>

Johann Krämer ヨハン・クレーマー 1825年ウィーン製 80鍵 4本ペダル

ウィーン式のシングル・アクション。

ペダルは4本で左から、シフト(ソフト)ペダル、ファゴットペダル、モデレーターペダル、ダンパーペダル。

左右のペダルは現代のピアノと同じ効果を得るための装置です。

「ファゴットペダル」は、中音から低音域の弦の上に紙を巻いた棒が降りてきて、ビリビリという音色に変化させます。「モデレーターペダル」は、現代のアップライトや一部のグランドピアノにも付いているマフラーペダルと同様、弦とハンマーの間に薄いフェルトを挟ませるのですが、消音するためではなく柔らかな音色に変化させる装置です。

ピアノに金属のフレーム(支柱)が全く使われてなかった時代のフォルテピアノは、低音弦は真鍮製で張力が弱く、小型の革巻きハンマーでは音量も少なく音も伸びないため、タッチだけで音色を変えることは困難でした。

これらのペダル機能からは、表現力において、音量だけではなく音色も変化させたいという作曲家の思いが見て取れます。

産業革命以降に良質な金属が生産され、弦も強く張ることが可能になると音量も音の伸びも格段に進歩。フェルト巻きのハンマーが採用されてタッチで音色が変えられるプレイエルやエラールが登場すると、フォルテピアノの音色を変えるペダル機構は消滅しました。

